

教科目標

言語聴覚士科

養成目的

本校では、多様な地域社会の中で活躍できる場を自ら開拓し、地域の活性化に貢献していくために、専門的知識や技術の習得を目指すだけでなく、自ら考えて行動する力や協調性のある社会人としての態度、人を尊重する豊かな人間性を身につけた言語聴覚士の養成を目的としています。

言語聴覚士は、医療・保健・福祉・教育の様々な分野でことばやきこえ、のみこみ、発達などに対して改善や促進に努め、より円滑なコミュニケーションの実現に向けたサポートを行います。その関わりは乳児から高齢者までの多世代にわたり、本人だけでなく家族や関連職種、地域などに及ぶため、様々な相手との高いコミュニケーション力が求められます。

教育目標

地域社会の中で信頼を得ながら協働できる社会人基礎力と、多様な社会性を理解し、相手の立場を尊重しながら対人援助を行える人間性、及び地域の発展に参画し、貢献することで自己実現しようとする主体性を備えた言語聴覚士になるために、実践的な体験型のカリキュラムや多世代交流プログラム、学内外での実習経験などを通して、自ら考え行動する力、多職種との連携、多様なコミュニケーション力を身につけます。そして卒業時に国家資格を取得し、言語聴覚士として就職することで地域社会に貢献する人材を育てます。

取得目標資格

言語聴覚士（国家資格）

就職分野

1. 病院（急性期・回復期・維持期など）、診療所、リハビリテーションセンター
2. 介護老人保健施設
3. 特別養護老人ホーム
4. 訪問看護ステーション
5. 通所リハビリテーション
6. 療育施設
7. 児童発達支援センター
8. その他

職種

言語聴覚士（S T : Speech-Language-Hearing Therapist）

学年・学期到達目標

1年次：自分と他者との良い関係性構築と社会人基礎力の重要性に気づくことができる。

専門基礎知識の学習と見学で職業の具体像を知り、興味を深めることができる。

前期：生活習慣と学習習慣を確立でき、専門基礎知識の定着ができる。

後期：見学実習などの現場学習を通して職業への興味を深めることができる。

2年次：多様なコミュニケーションと専門知識・技術を身につけることができる。

前期：主体的かつ継続的に課題解決への取り組みができる。

後期：実践を通して習得した知識や技術の定着を図り、学びを深めることができる。

3年次:求められる職業人像に向けて自ら行動を計画し実行することができるようになる。

前期：臨床の1年目に必要とされる基本的な能力と基本姿勢を身につけることができる。

後期：臨床にむけた知識の整理ができる、国家試験に合格することができる。

キャリア教育マップ

主体性*:「Hand-book of Life Style」から第3の原則「自分でやろう」に該当する

計画力**：「Hand-book of Life Style」から第1の原則「目的をもってやろう」第2の原則「大事なことからやろう」に該当する